

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 10 日現在

機関番号：17102

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24760495

研究課題名(和文) 由布院盆地における土地利用の「掟」と空間づくりの「履歴」の把握

研究課題名(英文) Understanding the 'rules' of land use and 'history' of spatial design at the Yufuin plateau

研究代表者

高尾 忠志 (TAKAO, Tadashi)

九州大学・持続可能な社会のための決断科学センター・准教授

研究者番号：20380579

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、由布院盆地を対象として、地域住民に伝わる土地利用の「掟」と地域住民や行政が進めてきた空間づくりの「履歴」を把握することを目的とする。地名、開発、災害、地域資源、言い伝え等から「掟」について、環境整備や住民の維持管理活動から「履歴」の調査を行ない、それらを規定する主要な要素として「水環境の豊かさ」と「土砂災害」を指摘した。その上で、由布院盆地における現行の都市計画行政を評価し、防災の観点と水循環から環境を捉える視点が希薄であることを指摘した。

研究成果の概要(英文)：This study is intended to understand the "rules" of land use and "history" of spatial design at the Yufuin plateau. I investigated the "rules" from the place name, development, a disaster, local resources, a legend and "history" from environmental maintenance and the maintenance activity of inhabitants. And I pointed out "the richness of the water environment" and "sand disaster" as a main factor to prescribe them. With that in mind, I evaluated current city planning administration in the Yufuin plateau and pointed out that a viewpoint to capture environment from a water cycle and disaster prevention was thin.

研究分野：都市計画

キーワード：土地利用 都市計画制度 掟 履歴 由布院盆地

1. 研究開始当初の背景

人口減少時代を迎え、社会経済活動の環境へのインパクトが意識されるようになり、持続可能な都市・集落のあり方が求められている。土地利用計画においても、戦後わが国で取り組まれてきた都市の成長・拡大を前提とした計画手法ではなく、持続可能性という観点からの地域資源や空間利用の評価と、多様な主体が関わる地域の土地利用変容のマネジメントが課題として指摘されている(小浦久子, 都市計画研究の現状と展望「土地利用」, 都市計画 275, pp69-75, 2008.10)。また、制定後 100 年を迎える 2019 年に向けて、都市計画法の抜本改正に関する議論が動き始めており、これまでの制度を検証し、新たな制度を構想する上で、長期的視点に基づいた土地利用変容に対する評価・計画づくりの視点が求められている。

これまでわが国で取り組まれてきた土地利用計画は、統計データや地理情報システムによるデータなどを活用した分析(現状・予測)を基礎としながら、地域における都市計画上の課題に対して、地域における合意形成プロセス(都市計画手続き)を経て実行されてきており、その結果としてやや現実主義的であり、現状追認、課題解決としての性格が強い。そのため、短期的視点に基づいた非計画的な側面も否定できず、市町村レベルで対応可能な長期的視点に基づく計画手法・合意形成手法の開発が求められている。

2. 研究の目的

そこで本研究では、現行土地利用に対する評価、長期的な視点に基づく計画づくり、さらには地域住民の計画策定に対する参加と合意形成の促進を図る視点として、地域における土地利用の「掟」と空間づくりの「履歴」に着目する。

具体的には、現在、土地利用規制および景

観規制に関する抜本的な見直しを進めている大分県由布市の由布院盆地を研究対象とし、地域住民に伝わる土地利用の「掟」と地域住民や行政が進めてきた空間づくりの「履歴」を把握することを目的とする。

ここで言う「掟」とは、地域における土地利用に関する伝統的な作法であり、地域で長年に渡り培われてきた暮らし方の知恵でもある。これらの作法や知恵は、地域住民の中に言い伝えや地名として残っており、本研究はこのような社会的、地理学的な見地を土地利用計画に取り込もうとする試みでもある。

また、空間づくりの「履歴」に着目しているのは、由布院盆地には、これまで地域住民が主体的に、もしくは自然に行ってきた空間に対する働きかけが蓄積しており、それらの過去から現在まで続いてきた活動のなかに、継続的に共通している「環境に対する思想」が存在しているからである。この「環境に対する思想」は、前述した土地利用の「掟」を理解する際にも重要な情報となる。

3. 研究の方法

本研究は、大分県由布市の由布院盆地を対象として、土地利用の「掟」と空間づくりの「履歴」を把握するものである。平成 24 年度は、地名、開発、災害、資源利用、言い伝え等について調査を行い、由布院盆地における土地利用の「掟」を把握する。平成 25 年度は、行政や住民による環境整備、住民の日常的な維持管理活動を調査し、由布院盆地における空間づくりの「履歴」を把握し、そこから空間づくりの「思想」を読み取る。平成 26 年度は、過年度の成果と由布院盆地における土地利用や規制に関する現状調査をもとに、由布院盆地の土地利用と現行規制の評価を行う。

4. 研究成果

平成 24 年度は、由布院盆地における土地

利用の「掟」について、地名、開発、災害、地域資源、言い伝え等の観点からヒアリング調査や文献調査を行った。その結果、「掘ってはならない」という開発を禁止するような意味の名前がついた地名が、盆地を囲む山の中腹部（斜面勾配が急になるあたり）に残っていることがわかった。また、近年の局所的大雨において土砂災害が発生しているエリアとそうした地名が残るエリアが重なっており、これは土砂災害危険区域の指定区域とも重なるが、必ずしも十分に一致しなかった。現在の宅地造成行為は、こうした地名に残される地域の暗黙知に十分配慮していない可能性が指摘された。

平成 25 年度は、由布院盆地を対象として、空間づくりの「履歴」に関する調査を行った。ヒアリング等のフィールド調査によって、湯布院町および由布市がこれまで行ってきた環境整備、地域住民が主体的に行ってきた環境整備、その他地域住民による日常的な活動を把握した。由布院盆地内の各地域は、自治組織の結束が比較的強固であり、地域の環境に関する維持管理活動も行われている。特に地区で所有または管理をしている共同温泉に関しては、各自治会の気質や意思決定の「クセ」に応じた維持管理が進められていることがわかった。また、河川環境については、テーマ型のコミュニティが主体となるとともにより広域的に住民が関わっていることも伺えた。また、行政が実施する河川や駅、街路等の公共事業においても、これまで地区住民から主体的な提案、意見交換が行われてきており、その結果として由布院地域のオリジナリティーを持った環境整備が連綿と積み重ねられてきている。

そうした空間づくりの「履歴」から、由布院盆地の住民が地域の環境に対して主体的で高い意識を持ち、またそれが地域住民の間で、様々なコミュニティレベルで、多層的に共有されていることが明らかになった。しか

し、その一方で、高齢化や地域外からの関係者の増加や注目の高まり等により地区における合意形成システムは変質してきている。また、湯布院町時代は、行政と市民の意識は、信頼性と対立が共存した「対立的信頼関係」（中谷健太郎）にあったが、平成の大合併後、そうした関係が希薄になってきている点も指摘された。つまり、これまで由布院盆地の環境を維持・更新してきた仕組みや体制が今後も継続していくとは限らず、由布院盆地の土地利用における「掟」を継承し、由布院盆地の環境を持続していくためには、こうしたコミュニティにおける意思決定システムについても配慮することが求められている。

平成 26 年度は、これまでの調査結果をもとに、現行の都市計画行政の評価を行った。由布院盆地の土地利用の「掟」と「履歴」を規定してきた主要な要素は「水環境の豊かさ」と「土砂災害」であり、「環境」と「防災」の両面を持ち、そうした風土的な条件の中でコミュニティの暮らし方が醸成されてきたと言える。その一方で、現行の都市計画行政は、開発に対する評価の視点として、「環境」に偏っており、防災の観点が希薄であったこと、「環境」の捉え方として山から川までをつなぐ水循環としての視点が欠けていたことが指摘された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 0 件）

〔学会発表〕（計 3 件）

- ① 高尾忠志, 由布院盆地の土地利用の見直し, 第 9 回景観・デザイン研究発表会, 2013. 12. 14-15, 東京工業大学 (東京都)
- ② 高尾忠志, 「下流志向」と景観, 第 8 回景観・デザイン研究発表会, 2012. 12. 1-2, 東北大学 (宮城県)
- ③ 西村菜美・高尾忠志・他 2 名, 湯布院町温湯区における共同温泉の維持管理体制と合意の仕組み, 第 8 回景観・デザイン研究発表会, 2012. 12. 1-2, 東北大学 (宮城県)

〔図書〕（計 0 件）

[産業財産権]

- 出願状況 (計0件)
- 取得状況 (計0件)

[その他]

特になし

6. 研究組織

研究代表者

高尾 忠志 (TAKAO Tadashi)
九州大学持続可能な社会のための決断
科学センター・准教授
研究者番号：20380579